

続・Quality Indicator の 実装とその改善

日々の診療に役立つ診療評価指標

2022年に本誌10月号で生活習慣病を中心に診療評価指標（Quality Indicator：QI）をまとめ、多様な生活習慣病の診断や管理についてのQIの紹介とともに、その実装（implementation）方法についても整理し、“生活習慣病診療にまつわるQIの実装とその改善”として多くの方々にご利用いただきました。その特集がご好評いただいたということで、今回は生活習慣病の枠にとらわれずに、幅を広げて日々の診療に役立つQIについて、さらに紹介する機会をいただきました。

プライマリ・ケアにかかわる皆さまを対象として、米国医療研究品質局（AHRQ）や経済協力開発機構（OECD）などを参考にし^{1,2)}、予防、救急、小児、入院、プライマリ・ケア、患者中心性、患者安全といった項目を中心に、わが国の実情に合った「整形外科やメンタルヘルスを加えたよくある症候や疾患」「健診異常」「病院や診療所の運営」などに加えて、「かかりつけ医制度」「diagnostic excellence」「災害時の事業継続計画（BCP）」といった最新のトピックスについても対応しました。また、国内の評価指標事業をリードしてこられたレジェンドの方々に、評価指標の作成方法、国内外の評価指標事業について解説いただき、理解を深めて活用できるように工夫しました。

品質保証（QA）の概念は、産業革命以来、機械による自動化などの大きな変化に対応する際に品質指標管理の手法として大きな役割を果たしました。そして、評価指標は、軍事・航空、石油・ガス、原子力、自動車など、産業における最優先事項として挙げられる6つの側面、すなわち安全性、有効性、顧客中心性、適時性、効率性、公平性を時代の変化に合わせて改善・維持させるための重要な方策として活躍しています³⁾。働き方改革、AIとの共存など、医療においてもさまざまな環境変化があるなかで、タスク・シフト/シェア、オンライン診療やAIアシストによる診療といった対応を安全に行うために、QIとその管理の概念が役に立つと考えています（図1⁴⁾）。

かかりつけ医や患者中心性、患者協働、shared decision making（SDM）といった医



【図 1】 ChatGPT4.0 が「医療スタッフとAIがQIを用いて新しい医療提供を模索する様子」を図示したイラスト

療のエッセンスについては、その QI をもとに自身やチームを評価して振り返る内省と改善のツールとして活用してください。加えて、がんサバイバーシップや災害時の事業継続計画（BCP）策定などといった新たな取り組みについては、どのような目標を立ててプロセス、アウトカムを組み立てていけばよいかを考える milestone を設定するのに活用いただければ幸いです。

●文献

- 1) Agency for Healthcare Research and Quality : Measures
https://qualityindicators.ahrq.gov/measures/qi_resources (2024 年 8 月閲覧)
- 2) Organisation for Economic Co-operation and Development : Healthcare quality and outcomes
<https://www.oecd.org/health/health-systems/health-care-quality-outcomes-indicators.html> (2024 年 8 月閲覧)
- 3) de Jonge V, et al : Overview of the quality assurance movement in health care. Best Pract Res Clin Gastroenterol 25 : 337-347, 2011 PMID 21764002
- 4) Feng J, et al : Clinical artificial intelligence quality improvement ; Towards continual monitoring and updating of AI algorithms in healthcare. NPJ Digit Med 5 : 66, 2022 PMID 35641814



小坂 鎮太郎

〔東京都立広尾病院病院総合診療科/東京都立病院機構総合診療推進プロジェクト（T-GAP）〕